

午後3時30分再開

○議長（中島秀樹君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番大庭きみ子議員の質問を許可いたします。12番大庭きみ子議員。

（12番大庭きみ子君登壇）

○12番（大庭きみ子君） 皆様、こんにちは。12番大庭きみ子でございます。本日はお忙しい中に、また足元の悪い中に議会傍聴においでいただきまして、ありがとうございます。

また、インターネットで傍聴いただいている皆様方、ありがとうございます。

昨日は、北海道厚真町で震度7の地震が起こり、山が数百メートルにわたり崩壊しております。犠牲になられました方々が9名、不明者28名、また負傷者305名ということですが、被害の全容はいまだにわかりません。しかし、大変心配なことであります。

また、5日の台風21号でも、関空空港を初め大阪など甚大な被害が出ております。

そして、7月6日の西日本豪雨災害から2カ月が過ぎておりますが、犠牲者が222名、行方不明者が10名おられ、なお1,500人以上の方が今なお避難所生活を余儀なくされております。

尊い犠牲になられました方へ、心から御冥福をお祈り申し上げます。そして、一日も早く平穏な日々を取り戻せますようにお祈り申し上げます。

朝倉市も、7月6日の豪雨災害では、人的被害はなかったものの、再び甚大な被害が出ております。日本はまさに災害大国となり、日本全国どこで災害が起こるかわからない状況であります。まずは自分の身は自分で守ることが大切ですし、自分たちができることはお互いに助け合う自助・共助・そして公助が大切であります。

9月1日は防災の日でもありましたが、全国で防災、減災への関心や取り組みが始まっています。現在も、朝倉市の事例に学びたいと、朝倉災害母子支援センターきずなへの視察も続いております。

私も、災害母子支援センターきずなの活動報告に、各自治体や市民グループに呼ばれて講演に行く機会がふえてきました。朝倉市での災害時の被災者や母子支援の取り組みが少しでもほかの自治体の役に立ち、災害弱者である母子や女性への支援、母子避難所の設置が全国に広がっていけば、多くの女性や母子が救われるものと思っております。

先日は、兵庫県三田市の湊川短期大学と三田市の共催で行われました市民大学が開催され、講師と招かれ、行ってまいりました。

兵庫県は、23年前に阪神淡路大震災を経験されており、大変な苦難の中から見事に復興を遂げられております。三田市は、大阪、神戸の大都市のベッドタウンとして人口もふえ続けています。それも政策的に進めてこられたとのことであります。住民が早く戻りたいという強い思いがあって、復興が早く進んだとのことでした。

災害後の総合的な都市計画やまちづくりを考え、ハード面の復興と同時にソフト面での復興もあわせてやっていかなければ、衰退していく一方だと思えます。

難問課題が山積していますが、チャンスを見逃さず一つずつ前向きに取り組んでいくことが大事だと考えます。

それでは、この後は質問席より質問させていただきます。執行部におかれましては、明快なる回答をよろしくお願いいたします。

(12番大庭きみ子君降壇)

○議長(中島秀樹君) 12番大庭きみ子議員。

○12番(大庭きみ子君) それでは、通告書に従いまして九州北部豪雨災害に対する被災者支援についてお尋ねをいたします。

地域支え合いセンターについてでございますが、これは4番議員からも午前中に質問がございました。それで、重複する部分は避けたいと思いますが、その佐々木議員の質問、答弁によりますと、訪問対象が1,052世帯のうち132世帯が訪問済み、98%ということでありました。

また、残り20世帯が未訪問ということでもあります。まず、その理由について尋ねたいと思います。

○議長(中島秀樹君) 総務部長。

○総務部長(鶴田 浩君) 20世帯でございますが、訪問する際には相手方といつお会いするというような日程調整等をするわけでございますけれども、その日程を調整する際に、相手方と連絡がとれない、それからこちらから連絡しても日程についていつがいいというふうなことが返ってこないといったことがあるようでございます。そういった日程調整上の機会が持てなかったと聞いております。

○議長(中島秀樹君) 12番大庭きみ子議員。

○12番(大庭きみ子君) それでは、この地域支え合いセンターの目的について、もう一度確認をしたいと思います。もう一度お願いいたします。

○議長(中島秀樹君) 総務部長。

○総務部長(鶴田 浩君) 被災された方々が安心して日常生活を取り戻し、自立した生活再建ができるよう、相談、声かけなどの見守りや地域交流の参加促進、公的支援へのつなぎを行うことを目的に設置したものであります。

それから、支え合いセンターのこの目的にあわせまして、ちょっとつけ加えまして、支え合いセンターが思っておりますねらいというものがありますので、これについてもあわせてつなぎます。

1番目、被災者の孤独死、自殺を防ぐ。2番目、被災者の早期の生活再建を支援する。

3番目、効果的な連携支援のための窓口となる。それをねらいとして考えております。

○議長(中島秀樹君) 12番大庭きみ子議員。

○12番(大庭きみ子君) 本当に大切な目的と、今ねらいを上げられたと聞いております。この地域支え合いセンターができて6カ月がたっております。それでまだ98%、あと20世

帯の方が連絡がとれない。相手方の都合が合わなかったということでございますが、本当に孤立を防ぐ、自殺を防ぐ、またそういう公的な相談機関とつなぐという大事な目的があるんですね。本当にそういう20世帯かもしれませんが、その世帯の方たちが私は大変必要としてあるのではないかなと思っております。

私も何度かお電話をいただいたこともございます。まだ全然人は連絡、訪問にみえません。みなし仮設に入ってあったり、全然何の支援もいただいていませんという連絡もあります。本当にこの地域支え合いセンターの役割ですね、それがきちんと果たされているのだろうか、時々疑問に思うことがございます。

今12名担当の方がいらっしゃるということでしたが、やはりこのゼロに、100%まずは訪問をする、その状況を把握するということが、まず先決ではないかなと思っております。そのあたりの努力はどのようにされているのか、お尋ねいたしたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 地域支え合いセンターでは、活動報告というものをさせていただいております。見守りの対象世帯が実際にはどれだけあるか、それから、支援区分の判定結果、つまり支援をするときに重点的に支援をするとか、経過観察だけでいいとか、最終と、そういった区分分けをしております。

それから、センターごとの活動実績、センターでは仮設住宅、みなし仮設、公営住宅、自力みなし、それから在宅、それぞれありますけれども、そういった訪問件数等も報告がなされております。そういったさまざまな区分に応じて訪問をした結果に基づいて、支援を行っていくといったことでございます。

支援を直接行うというよりも、行政の窓口等につなぐということでございます。これらにつきましては、支え合いセンターの方々につきましては、先ほどの人数ではございませんけれども、精力的に行っていておるといように受けとめております。

○議長（中島秀樹君） 復興推進室長。

○復興推進室長（梅田 功君） 大庭議員御心配の20世帯の関係ですけれども、そちらの方々につきましては、支え合いセンター等の情報交換の中で、仕事がお忙しくて面会をする時間がとれないでありますとかということでありまして、孤独で全く状況、連絡がわからないというふうな方々ではないということで、説明を補足させていただきたいと思えます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） わかりました。でも全てが仕事ではないと思います。仕事をしない方もいらっしゃいますので、私のお電話いただいた方はですね。それで、熊本もそうだったんですけど、みなし仮設とか仮設住宅もそうですけど、やはり孤独死とか自殺とかが起こっております。まずそれを防ぐというのが、私は第一義だと思っております。だから、本当に見落としがないように、やっぱり一人一人のきちんとした支援をお願いした

いと思っております。

それと、もう一つ私は地域支え合いセンターには、そのコミュニティづくり、サロン活動なり、そこで皆さんが交流をして話す場、そういう場も必要ではないかと思うんですね。1対1での相談、もちろんそれも大事です。でも、1対1ではとても人数的に足りないでしょう。だから、被災者同士、また被災者のグループとその支援員と一緒に話すとか、地域の方も一緒に入ってもらって、一緒にコミュニティをつくって、そこで一緒に雑談をするとか、そういう私は取り組みも必要ではないかなと思っているんですが、そのあたりはいかがでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） そういう交流ということでございますが、市民が主体となるものではございますけれども、お互いに支え合う関係、そういったものをつくっていく、構築していくといった地域支援も支え合いセンターでは行うということにしております。

実際にサロンとか交流会という形できずな、杷木復興支援ベースなどのボランティア団体やFコープ、グリーンコープなどが主催されることが多くあるという状況でございます。

これに対しまして、9月1日に「かたらんね杷木」、これは新聞記事にも載っているんですけれども、杷木復興支援ベースと支え合いセンターが協力して、被災者の方々の交流会を開催したところでございます。

今後、毎月第1土曜日に定例的に開催する予定でございます。こういったように、支え合う関係といいますか、サロン交流会といった取り組みも支え合いセンターの重要な役割と考えております。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 本当にボランティアの方々もよくしていただいております。でも、ボランティアのいずれは引き上げて行かれるんですね。永遠にというわけにはいきませんでしょうし、その間、私たちは地域支え合いセンターの方々がそういうノウハウを学びながら、その後を引き継いできちんと地元で、自分たちで支えていくという体制づくりが必要ではないかなと思っております。

私たちがいろんなボランティアに行ったときに、やっぱりちょっとしたイベントをしたりして、その後に皆さんお茶を飲んでくださいとか、そのイベントをするときには、一軒一軒チラシを仮設住宅の方にお配りして、「お元気ですか」と声かけをしながら「集まって来てください」という声かけをしながら、信頼関係をつくって、都合のいい方は集まられて、そこでイベント開催、コンサートをしたり、いろいろ支援物資を持って行ったりして、その後にちょっとお茶を出して、一緒にお茶を飲んだり話をしながら、いろいろお話を聞いたり、傾聴しているんですね。

やっぱりそういう何気ない中での話というのが、お互いに信頼関係のもとに心を開いて、いろんなお話をされて、それで問題が解決していくとか、心が少し落ち着きましたとか、

マンツーマンだけではなかなかあり得ない、できないこともたくさんあります。

専門家の方との相談事業だったら、きちんと弁護士さんとか、そういう相談時間も必要なんですけど、それプラスやっぱり何気ないサロンの集まりの中で、一緒にお話をしながら悩みを聞くとか、いろいろなトラブルとかをお聞きして、「専門家の方にじゃあおつなぎしましょう」とか、「次はここに行ったらいいですよ」とか、そういうふうにおつなぎしたりとか、そういうの私もボランティアでやっておりますが、やっぱりそういう空間づくりというのが、私は必要じゃないかなと思うんですね。

だから、ただ訪問して行って、月に1回顔を見に行っていますじゃなくて、もうちょっと地域のコミュニティの再生というか、そういうつながりをもう一回つくり上げていくとか、そういう役割も私は支え合いセンターはあるんじゃないかなと思うんですね。そういう集会所に集まっていたら、ちょっとお話を一緒にみんなで楽しく過ごすとか、何かそういうことも考えていただいたら、もっと地域の住民の中に入っていけるんじゃないかなと考えておりますが、そのあたりもぜひ市として御指導いただきたいなというふうに思っているんですけど、そのあたりの考え方はどんなでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 復興推進室長。

○復興推進室長（梅田 功君） 朝倉市と社会福祉協議会が契約という形で今やっておりますけれども、その支え合いセンターの業務マニュアルの中でも、地域づくりの取り組みということで、先ほど部長が申しあげました支え合う関係性の地域支援を並行して行うというようなことでうたっておるところでございます。

今後、支え合いセンターのほうにも、そういうことへの力の入れぐあいを強めていくとかという話を進めていきたいとは思っております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） ぜひそのあたりの御指導をお願いしたいと思います。

これは、もう市が委託をして、社協にしているわけですから、きちんとそのプロパーの方もいらっしゃると思いますので、やっぱりそのあたりも重点的にやっていただきたいと思います。

そして、やはり主催者の方の立場、気持ちに寄り添っていくということが、すごく大事だと思っております。どうしても今いろんな不満の声をお聞きしたりすることもあります。一生懸命やってあるのはよくわかるんですが、なかなか要望していても、そのことが全然返事も返ってこない、何の知らせもないという、何かちょっと不満もお聞きいたしますので、そのあたりが今復興推進室ができておりますので、きちんと連携をとってやってあると思います。

先ほども月1回情報共有会議とケース会議をしているとおっしゃっていたんで、そういう情報はきちんと共有してあると思うんですが、なかなか現場の人には戻っていったいない、相談したことが返ってこないという声も聞かれておりますので、そのあたりはいかが

かなと思っております。どのようにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（中島秀樹君） 復興推進室長。

○復興推進室長（梅田 功君） 7月30日に復興推進室ができて、8月の下旬に——ちょっと日付のほう正確ではないんですが、私もケース会議、そちらに出席をさせていただきまして、それぞれが抱える各被災者の方々の家族の課題でありますとか、そういうことの情報交換、またはそれを改善する策等をいろいろ話し合いに一緒にさせていただきました。

その打ち返しを、担当相談員の方が今度伺ったときにきちんとやっという話をしておりますので、そのあたりは今後、特に気を配りながらきちんとやっていただく。そして、それができたかどうかまでを、今の段階で反復するという作業ができていないかもしれないので、そこはまた支え合いセンターと打ち合わせをさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 本当不信感が募ると、本当に皆さん孤立化に、またどんどん孤立感を持たれると思いますので、それらの信頼関係づくりがすごく私は大事だと思っております。きちんと打ち返していく。何か「上から目線で物を言われる」とか、「そういう頼んだことが何も返ってこない」とか、結構そういうふうに言われておりますので、そのあたりを十分気をつけていただきたいと思いますと思っております。

今、本当に仮設住宅もそうなんですけど、自分たちで何かやりたい、自分たちのコミュニティをつくりたい、例えば行事をしたい、みんなで一緒に花見をしたいとか、そういうふうに分たちのコミュニティを再生しようとしても、全く資金がないと言われるんですね。

それで、そういう中で「自分たちでガイドさんをして、少しお礼をいただいて、そのお金で皆さんのお弁当代を買っています」とか、「お茶代にしています」とか、そういう努力もされているんですね。

それは、もう区会長さんには手当がいつているけど、仮設住宅の館長さんには手当が行ってないという、そういう不公平、二重に交付するということへの不公平感があって、それはできないと言われているんですけど、そうやって新しいコミュニティを再生しようとしている、自分たちで頑張っている方たちがいらっやっして、その方たちは全くそのお金さえ自分たちでつくり出さないといけなくて、自分の仕事もできない。

本当にコミュニティづくりに今全面的にかかわっているというような話も聞くんですね。だから、本当にそういうふう地域の中で新しいコミュニティをつくろうとか、自分たちで何かやろうとしている、もうわずかな気持ちの人たちなんですけど、そういう方たちをやっぱり育てていくというのが、私はすごく大事ではないかなと思っております。

全て行政任せではなくって、自分たちが何かやろう、自分たちの力でこうやってコミュニ

ニティをもう一回つくろうとか、仲間意識を持つように、いろんなイベントをしようとかやっただけの方たちに対して、何か「そういうすぐお金」と言われてもあれなんですけど、そういう助成金が少しあるとか、何かお金から今つくってあるんですね、自分たちで活動するために。被災者の方が自分たちでお金をつくって、被災者の方のために活動してあります。自分も被災者ですと、自分も仕事に行けないと、その被災者の方の世話をしなくちゃいけないから。

何かそういう中でえらい苦労じゃないけど、大変な思いをしていますという話も聞くんですが、そういうちょっと頑張っている方たちには、そういう予算的なのとか、助成金のようなものがあると、皆さん元気になって、自分たちで何とか頑張っていこうというふうに、またいろんな立ち上がっていくのではないかなと思ってるんですけど、そういうお考えはないのかなと思いますが、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 自分たちでも被災された方々が、被災された方を助け合っただけで、コミュニティをつくっていきこうというようなさまざまな活動をされてあるということでございます。

これに対しまして、行政のほうから何か支援はできないかということでございます。今現時点で、そういった支援制度があるわけではありません。ただ、支え合いセンターがありますように、さまざまな問題とか課題とかというものを支え合いセンターが吸い上げて、そしてそれを行政のほうにつなぐということがございますので、まだそのことだけに捕らわれず、さまざまな問題、個別案件とかがあると思いますので、そういった案件を一つ一つ整理しながら、課題の解決に向けていくというふうに思っております。

ですから、そのコミュニティづくりに対する支援につきましても、必要性というものを十分私どもも認識しなければならないという過程を、まずは経たいと思いますので、現時点でそういう仕組みはないという状況でございますので、よろしく課題把握に御協力をお願いしたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 今のところはないということなんですけど、もっと自分たちがいきがいきづくり、お互いに元気に支え合いながらやっていきこうという、その意欲はすごく大事だと思うんですね。いつまでも行政に寄りかかって、何とかしてくださいというより、自分たちができるところは自分たちで解決していきましようという、そういう動きはやっぱり育てていかれたほうが良いと思うんですね。そういうのを助成していくというのは、すごく大事なことだと思いますので、何かそのあたりもちょっと視野を広げていただいて、自分たちが頑張ろうとしているところには少し応援をしていく。

本当に孤立してある方たちには、きちんと手を差し伸べながら、そういうコミュニティにつないでいくとか、本当いろんなやり方をしないと、一通りのやり方では多種多様、い

ろんな立場、それぞれ背景が違いますので、家族構成も違いますし、やっぱり寄り添っていくっていうのは、本当に難しいと思うんですね。そのあたりをひとつ視野を広げて、やっぱりそういう自分たちで頑張っている人には、何か助成をすとか、そういうことも今後考えていただけたら、もっと皆さん元気に頑張ろうという気持ちになっていかれるんじゃないかなと思っております。

行政ができることは、やっぱり限界があるとは思いますが。だから、そういう中で住民の力を活用していく、ボランティアの方を活用していく、そういうのをつないでいくのが支え合いセンターだろうと思っておりますし、それを最終的に指導してあるのは復興推進室だと思っておりますので、その連携をきちんととっていただいて、やはり本当に市民に寄り添った形でのふれあい、地域支え合いセンターになっていただきたいと思っています。

まだ始めて6カ月ということなんで、まだまだ課題がこれからたくさん出てくると思うんですが、早く信頼関係をつくっていただいて、本当に皆さん方が安心できる、孤立を防ぐ、特にみなし仮設に行っている方たちのやっば孤立感というのがありますので、そのあたりをしっかりと考えていただきたいな、把握していただきながら、取り組んでいただきたいと思っています。

ということで、それに対してもし何か御意見がありましたら、お聞きしたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） きちんと私どももそういった課題というものを把握していくことが大事だと思っております。毎月定例に事務連絡会議ということで、開催しているということを言いましたけれども、県とか社協とか支え合いセンターと行政とを結びつけるという会議ということで、じゃあ行政はどこが関与しているかということ、ちょっとここで話ししておきます。

もちろん復興推進室ですが、福祉事務所、健康課、子ども未来課、介護サービス課、都市計画課、教育課、商工観光課、ふるさと課、こういった多くの課が一緒にやっておるといことは、さまざまな課題を想定しておるといことでございますので、そういった面で市としても体制的にも、さまざまな課題に当たっていきたいと考えているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） ありがとうございます。本当にいろんな課がかかわっていただいているということで、総合的に対応していただけるものだと期待をいたしております。ぜひいろんな、やっぱり一人一人置かれている立場が、被災者の方が違いますし、本当総合的に考えていかないといけないことがたくさんございますので、ぜひとも職員の皆様方のお力添えをしっかりといただきながら、気持ちも心も体も、本当に復興に向かっていけるように支援をしていただきたいと思っています。

次の質問に移りたいと思っております。



次は、国道322号の西鉄甘木駅周辺整備について質問いたしてまいります。

これは、地元にちょっと配られたものですが、平成30年9月から国道322号の測量が始まっております。この測量期間というのは、全体の事業、これは馬田の東田から甘木の西鉄甘木駅の322号線の国道のことなのですが、全長は1.63キロあります。今回の作業区間としては1.1キロということで、九電の鉄塔が建っていますが、そこまでの区間が測量となっております。

今後というか、本当にこの道路の改修工事というのは、すごく時間がかかるというのはわかるんですが、今後のスケジュールについてお尋ねをいたします。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 平成30年度の事業といたしまして、今議員おっしゃいました区間、東田の交差点から千代丸の紫の交差点の周辺までを作業区間として、測量調査があるということ、各関係コミュニティへチラシが入れられている状況がございます。

まず、この測量によりまして、事業範囲が確定してまいります。測量の結果に基づいて事業範囲の確定に伴いまして、その関係者を特定して行って、その保証等の調査であるとか、そのようなものを経まして用地交渉、その後支障物件交渉が整えば、その支障物件の撤去があつて、道路工事というような手順で今後事業が進んでまいります。まずはこの測量調査によって、その範囲が特定されていくという作業に着手されたという状況でございます。

今後その具体的なスケジュールにつきましては、予算等の関係もございまして、その都度事業者から関係者へ示されていく、その前段では、朝倉市へも情報提供いただけるとは思いますが、そのような際には、また議会にも情報提供していきたいと思っております。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） ここの甘木町の大きな課題としては、この西鉄甘木駅前のクランク解消というのがずっとあつたんです、課題としてありました。これに、このクランク解消に向けて、今後また進んでいかないといけないと思っておりますが、まず国道322号の秋月の八丁峠のトンネルが開通するのはいつでしょうか。大体どの予定になっていきますか。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 私どもが県土整備事務所より今後のトンネル開通のスケジュールとして示していただいておりますのは、平成31年度中の開通というところで、年度中では開通をさせますけれど、その詳細な時期については、まだ示されてない状況でございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） もう平成31年度といたら、来年度ですよ。もう来年度に開

通ということで、これ本当に大変喜ばしいことだとは思いますが、そこは、八丁峠トンネルが開通されますと、北九州、久留米まですごくここアクセスがよくなりますので、交通量が増加してくるということが見込まれると思うんですね。

このやっぱりどうしてもネックになっているのは、私はクランクではないかと思っております。このクランクが解消されれば、もっとスムーズに皆さん利便性も上がりますし、本当に利用しやすい国道322号になると思うんですが、そのあたりでこの、去年は災害がございましたので、その一昨年に説明がございまして、福岡県のこれはマスタープランに、ここ西鉄甘木駅前周辺は、広域拠点として位置づけられているんですね。都市計画されております。

朝倉市もそれを都市計画の変更があつて、決定をいたしております。その中で、ここはどうしても広域拠点のまちづくりの拠点になると思っております。これは、いろいろ災害もございましたし、去年はその予算を何か返上したということで、国の予算を返したということでございましたが、やはりこの長期のスケジュールの中では、国、県が進めてきておりますので、国道も国が県に移管して整備をされてこられます。国道322号の八丁峠トンネルも開通してくるとなると、やっぱり必然的にこの利便性というのは高まってまいります。

そのあたりで、この朝倉市としてどう考えていくかというのは、大きな私は課題だと思っておりますし、一つの大きなチャンスだとも思っています。

今、災害が起こりまして大変厳しい朝倉市になっている、その状況はよく理解できております。しかし、これは大きな国の流れであり、県の流れの中で、この整備というのは上がってきておりますので、このあたりが朝倉市がどうこのまち、区画整理事業として取り組んでいくかというのが、今後のこの朝倉市の発展に大きくかかわってくるのではないかなと思っております。

そのあたり本当に難しい問題ではあるんですけど、やはりこの大きなチャンスをどう生かしていくかということで、そのお考えをちょっとお尋ねしたいと思います。

**○議長（中島秀樹君）** 都市建設部長。

**○都市建設部長（井上 浩君）** 国道322号の駅前のクランク解消のためのショートカット案につきましては、これまで長らく国、県への要望という形でようやく線形が示されております。それに伴いまして、私どもとしましては、災害前までは平成29年度に駅前周辺の概要を構想としてまとめるような発注を予定はしてございましたが、この災害に伴いまして、その予算を執行できない状況となったところでございますが、今平成29年度の災害対応を一生懸命進めております。そのためには、人も予算もそちらに向けている現状がございまして、その上で、この平成30年7月にもまた大きな災害を受けた状況がございまして、

この平成30年の災害については、今現場等の測量等をやりながら、査定の準備を進めている状況がございまして、この査定の状況も見ながら、今後の対応を考えていかなければ

ならないと考えている中で、議員おっしゃっているように、駅前周辺についても、大変重要な事業ということで考えてはおりますが、一定のその全体把握といいますか、災害に対応する状況把握を行ってからの判断になってくるだろうと考えておるところでございます。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 大変今厳しい状況だというのは、よく理解いたしております。ここに今後のスケジュール案というのがちょっとございます。これは、ことしの4月25日の時点で作されているものです。国道322号の甘木バイパスのスケジュールなんですが、一応平成30年度に基本構想の策定、平成31年に基本計画作成となっております、この中に西鉄甘木駅との交渉、地元説明会というのが平成30年度に入っております。

ここがただの道路の据え変えだけで、ただクランク解消だけで真っすぐに道をするだけで終わるといえるのか、やっぱりその駅前周辺、さっきの県のマスタープランの中に入っています広域拠点としてのこのまちづくりという大事な、これはもうマスタープランの中に入っておりますので、そういう考え方のもとに進めていくのか、全く違うと思うんですね。

これは、もう10年、20年かかる計画かもしれませんが、でも既にもう国道322号のトンネルは開通しておりますので、やはり私はここをただ車が通り過ぎるだけ、ただ排気ガスの通り過ぎるだけではなくて、やはりこれからの朝倉市が復興していくための一つのシンボルとして、やっぱり捉えていく必要があるのかなと思います。

本当に復興で広域拠点として、「甘木は西鉄甘木駅前、杷木は杷木のコミュニティセンターのところ、朝倉は朝倉の庁舎のところというふうに、3つの拠点をつくります」という2年前の答弁があったんですが、やはり人口がどんどん流出していつている。この朝倉市がだんだん衰退していつている中で、何か一つ朝倉市の復興策を打っていないと、人はどんどん減っていくんじゃないかなと、私こういう、すごくこれはチャンスになっているのではないかなと。

広域で人が集まってくる、甘木西鉄電車駅と、甘木鉄道と、そのあたりをきちんと一体化をして、バス停まで一体化をしていくとか、何かそういう少し朝倉市が希望が見えるような、もうちょっと発展していけるような、何かそういう構想も描きながら復興もやっていないと、だんだん復興、復旧だけで終わって、だんだん衰退していつてしまうという、そういう厳しい側面も出てくるんじゃないかなと思います。

私先日ちょっと兵庫県に行きまして、そういう復興の20年たったの今の姿を見たときに、「やっぱりビジョンがきちんとありました」と言われて、だからすごいそれは苦労されているんですが、やっぱりこういうビジョンを持っとかないと、ただ単なる道がつけかえに終わってしまう、ただクランクがまっすぐになってしまっただけというので終わらせるのか、そのあたりは今から既に始まっているんですね、このスケジュール表を見ましたら。

あと地元説明会とかずっとございますし、やっぱり今すぐ動いてくださいというのは、もう無理だとは思いますが、こういうことを計画に入れながら、ビジョンを持ちながら取り組んでいくのと、全く考えていないのとでは違うと思いますので、そのあたりのお考えですね、このまま全く考えないでいくのか、やっぱりビジョンとしてきちんと朝倉市の今後の復興のまちづくりを考えていくのか、そのあたりをどのようにお考えなのかなどお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 災害前については、この国道322号のクランク解消にあわせまして、駅前周辺整備を一定活性化に結びつけられるような構想を想定して考えてきております。

現段階で、その考え方をそのまま維持できるのか、そのことも含めて、今ある市の災害対応の人的な状況なり、予算、長期の見通しも想定した考え方で整理していく必要があると思っておりますので、私ども担当部局としての情報を上げながら、朝倉市全体の政策として、いずれかの時点でお話することになるかと思っております。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） これは、まちづくりだと思うんですね。どういうビジョンを持ってこの朝倉市を復興させていくか、そういうところできちんとやはりビジョンを考えておくというのは、すごく大事なかなと思います。

でも、これはぜひ市長にもお願いしたいんですが、この朝倉市をどういうふうなまちづくりを今後していこうと思われているか、そのあたりを含めて考えていただきたいなど。

1年、2年でできるものではないと思いますが、私はすごいチャンスだと、もうこれ最初で最後のチャンスになるかもしれないと思っています。そのあたり何かお考えがありましたら、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 国道322号の整備促進につきましては、議員も質問の中で言われまして、来年度八丁峠トンネルは開通することになっております。

県会議員時代に、当然のことながら国道322号の改良促進期成会の場合には常に呼ばれておりましたので、この国道322号が北九州から久留米まで結ばれるということの重要性については、十分認識しているつもりでございます。

そしてまた、朝倉市が今後災害に対応しながら、しっかりと地域を盛り上げていくということについても、この駅周辺の整備等につきましては、非常に大切なことの一つであるとは、当然のことながら考えておるところでございます。

しかし、なかなか極めて今厳しい状況にあるのも、議員も御案内かと思っておりますけれども、今いわゆる合併特例債を活用した大型事業を凍結をいたしております。凍結を解除できないというほどに厳しい財政状況というのも、御認識いただきたいと。

昨年からの復旧事業、そしてことしの災害への対応、財政需要が非常に多くなっている。これがどのぐらいになるのかが、まだわからないという状況でございます。国、県につきまして、災害復旧に関する事業の市負担軽減のための要請も当然行っておりますし、そしてまた、事業関係以外で交付税措置についても、要請を行っておるところでございます。こういう状況でございますけれども、ことしの西日本豪雨災害が考えておりました私のこれから先の復旧・復興、そして朝倉市の活性化、これについて極めて重たい状況に来たなという状況でございます。ぜひ御理解をいただきたいと思っております。

こういう中で、今議員がお話しになりました件につきましては、当然のことながら、今後の朝倉市にとって大切な事業の一つということは認識しておりますので、しかるべき時が来ましたら、判断できる状況が来ましたら判断をさせていただいて、どういう規模でやるかも含めて、そして議会の皆さん方に御検討いただくということで考えておる次第でございます。大変厳しゅうございます。

**○議長（中島秀樹君）** 12番大庭きみ子議員。

**○12番（大庭きみ子君）** 大変苦しい胸のうちをお話しいただきまして、ありがとうございます。もう県議時代から、この国道322号のクランク解消については大変御尽力いただいておりますし、トンネル開通についても、大変御尽力いただいておりますので、よく御理解いただいていると思っております。

かすかな希望なんですけど、やっぱり朝倉市を何とか復興させたい、衰退させたくない、やっぱりもう少し魅力のある人口がふえるような、そういうまちになってほしいという願いがございます。ぜひともそのあたりもお酌みおきいただき、前向きに検討していただきたいなと思っております。

次の質問に移らせていただきます。

次が、学校ブロック塀についてでございます。これ柴山議員もされるようになっておりましたが、ちょっと私のほうに宿題が回ってきましたので、私から質問させていただきます。

まず、これはもう皆さんも御存知のとおりなんですけど、大阪の地震の際に、大阪府の小学校のブロック塀が倒れて、4年生の女子児童が下敷きになって死亡するという、本当に痛ましい事故が起きております。

もう既にこれも朝倉市内でも点検はされているものだと思いますが、その結果についてお尋ねいたします。

**○議長（中島秀樹君）** 教育部長。

**○教育部長（高良恵一君）** まず、学校のほうからお答えをいたします。

先ほどおっしゃいましたような大阪の痛ましい事故が発生後、すぐに朝倉市立の市の全小学校、中学校のブロック塀について、教育課職員が直接出向いて調査を行っております。

その結果、学校内に早急な対策が必要となるレベルの箇所はありませんでしたが、対応

しておくべきブロック塀が2カ所ございました。これにつきましては、既に工事の発注をして、9月中旬に工事が終了するというようになっております。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 今もう発注して工事が進められているということで、安心いたしました。

あと保育園とか幼稚園、小中学校も——それは小学校のあれですかね。小学校、中学校の点検ですね。じゃあ、保育園、幼稚園の対策はできているのか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 教育課所管は幼稚園がございますので、幼稚園のお話しをさせていただきます。

朝倉市内には、市立幼稚園がございませんので、私立幼稚園が6カ所、6園ございますが、これは私立学校法の中で県が所管と、具体的には知事部局の私学振興課というところが所管をしていますので、同じようにこの事故発生直後に、各園に調査に入られて、的確な指導がなされているということについて、私ども県に確認をしたところでございます。

○議長（中島秀樹君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 保育所のブロック塀につきましても、国土交通省の点検マニュアルに基づきまして、全ての私立、それから公立保育所で行っております。

私立保育所につきましては、点検結果に基づき指導を行いました。また、撤去後の結果についても、確認をしていきます。

公立保育所10カ所でございますが、撤去や改修が必要な塀があると判断したのが6保育所でございます。5保育所につきましては、現行予算で対応を行います。

それから、1保育所につきましては、今回9月の議会に補正予算を上程いたしておりますので、議決後に撤去や改修を行う予定といたしております。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） きちっと調査、また対応がされているということで、安心いたしました。

まだほかにも通学路沿いにある民間のブロック塀とか、やはり所管ではなくても、通学路のところでブロック塀が倒壊したりとか、いつ地震が起こるかもわかりませんので、そのあたりの対策はどのようにされていますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 民間設置のブロック塀の安全確認については、現在市の広報紙7月15日号で、自宅のブロック塀の点検を啓発しているところでございますし、ホームページでも呼びかけを行っているところでございます。

ブロック塀については、県の建築指導課による指導が可能であり、危険なブロック塀の所有者へは、助言等県と連携して助言指導の対応を行っていきたいと考えております。以

上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） やっぱり助言、指導というのは大変だと思うんですね。ただ、そのブロック塀改修のためには、やっぱりかなり経費がかかってまいりますし、これは福岡市議会でもそうですけど、少し助成金を出すとか、そういう対応策を練っておられますが、そういうふうに進んでいくために、そのあたりの制度的なものは何か市でお考えになっていますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 現在、福岡県議会できょうから開会されているようですが、9月の補正予算ということで、私どももその県の取り組み情報を得ているところでございます。

その県の議会の状況を見ながら、制度の内容を確認して、私ども県の制度に乗っかりながら、ブロック塀撤去の補助制度を検討してまいりたいと考えているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） ぜひともその県の動きを見ながらということですけど、市のほうでも検討をお願いしたいと思います。

また、民間でもその通学路に限らず、やっぱり歩道の近くだったり、人に迷惑をかけるようなところで、やっぱり老朽化したブロック塀とかもあると思いますので、そのあたりも一緒に助言、指導をいただきたいなと思っています。

またあと公共施設、多分今度の補正予算にも上がってきておりますが、どのくらい点検されて、資料があれば、どれくらい該当があったのか、わかれば教えていただきたいと思えます。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 公共施設におきますブロック塀等の撤去について、この9月議会で1,300万円程度点検の結果、対応予算を御提案申し上げているところでございます。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 本当に痛ましい最近事故やいろいろ台風であったり、また地震があったりとか、大変自然災害がふえておりますので、ぜひとも事故の起こる前に、そういう対策をお願いしたいと思っております。

そして、子どもたちが安心・安全に学校に行けますように、そして市民が本当に災害のときに安全なまちでありますように、早目の設置とその取り組みをお願いしたいと思います。

一応これもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は10日午前10時から行い、一般質問を続行いたします。

本日はこれにて散会いたします。

午後4時24分散会